時間：16：30～18：00
場所：4号館 201 講義室

# 特別講演

演 題

# ＩＣＴを利用した授業改善

**講 師：広島大学大学院・教授**
**古澤 修一　先生**
**（ふるさわ しゅういち）**

〔講師紹介〕

東邦大学理学部生物学科を卒業し、帝京大学医学部助手。ハーバード医科大学病理学教室とニューヨーク大学医学部病理学教室にポスドクとして留学し、順天堂大学医学部免疫学助手、ニューヨーク大学客員准教授を経て、農林水産省動物衛生研究所主任研究官。その後、広島大学に助教授(生物生産学部)として赴任し、広島大学大学院 教授(生物圏科学研究科）、生物圏科学研究科副研究科長（教育・自己点検評価担当）を経て、2011 年 4 月より 2015 年 3 月まで広島大学副理事（教育改革担当)。現在は、広島大学 FD 部会で各種の必修および選択必修の研修を企画担当し、e ラーニング推進会議議長、平成 22 年度より e ラーニングポートフォリオの開発、設計、運営を担当。

【講演要旨】

近年、学生の主体的学びと授業外学習時間の確保、および教育の質の保証が求められている。今までの多くの大学講義では、学生は教員の講義内容（知識）を受動的にノートに書き写し、教員はその知識の習得率を評価しているものが多かった。高等教育で学生に身につけさせる能力は、目的を理解して知識を習得し、それらを応用展開させる能力である。教員の役割は、身につけるべき知識を説明し、学生がそれらの知識を結びつけて応用展開することを促すことにある。そしてなによりも重要な事は、学生にその学問の楽しさを伝え、学生自身でその先を学んでみようとする興味を持たせることである。現在の大学は、第一線の研究者が学習者に寄り添う導き手となり、常に変動し予測不能な人類社会の課題をグローバルな視点で協働して課題発見・解決することのできる人材を育成する場である。これは、研究者養成の立場であっても同じである。予測不能な現代社会に身を置く大学人として、変わりつつある社会環境を無視して、今までのような教育方法を実施していくわけにはいかない。それではどう学びを導けば良いのだろうか。広島大学では、学習者の学びを促す授業方法のひとつとして、反転授業というアクティブ・ラーニング法の導入を推奨している。本稿では筆者が担当する授業を事例に、教員に過度な負担をかけずに従来の授業を反転授業に置き換える方法を紹介し、また、実際に実施した反転授業の効果と課題についても紹介する。